

## The way forward

トップインタビュー

5年後、10年後を見据えた  
事業展開を、いまこそ。

当社の第59期業績は、イギリスのEU離脱による急激な円高に影響を受けましたが、一方で原油・ナフサ価格の下落に支えられてほぼ計画通りに進捗し、増収・増益を達成しました。要点を具体的にご説明しますと、情報機器市場では半導体フラッシュメモリーを用いたSSD(ソリッドステートドライブ)がHDD(ハードディスクドライブ)の脅威として台頭し、当社もハードディスク表面潤滑剤の減速を予測しましたが、HDDの持つ記憶容量の優位性やSSDの生産力不足によりHDDの需要は回復し、今期は大きな影響を受けませんでした。また購買部門を中心に原価低減の取り組みを積極的に進めたことが功を奏し、世界各地域の調達コストを下げることができたこともポイントの一つです。これに加え、当期は原料価格が低く推移したため、ダイカスト用離型剤や熱間鍛造潤滑剤などの新製品開発を効率よく進めることができ、価格競争力のある製品を生み出すことができました。来期は原料価格が上げ基調となるため厳しい状況が予測されますが、今期具現化してきたこれらの強みを生かして力強く進んでいけると思います。さらに一方では、目先の利益追求だけでなく、5年先、10年先を見据えて先行投資し、大きな変革を起こしていくことも忘れてはなりません。新たに発足させるデバイス材料部門において、昨年より動き始めた有機薄膜太陽電池(OPV)の事業化を目指す取り組みも積極的に推進し、次世代につながる強いMORESCOの姿を描いていきたいと考えています。

株式会社 MORESCO

代表取締役社長 赤田 民生



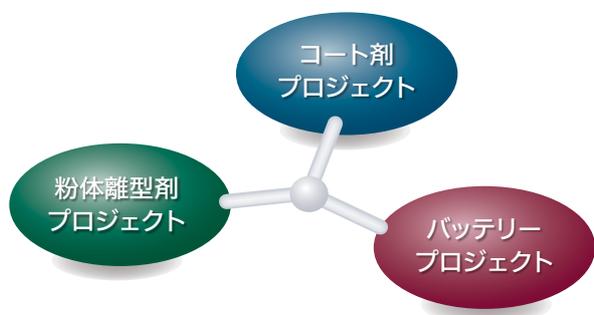
研究開発型企業としての存在意義を見直し、MORESCOにしかできない提案を強化。次世代につながるビジョンを描いていく。

## シェア拡大

## 研究強化

未来のMORESCOの軸をつくる  
社長直轄プロジェクトを始動。

短期的な利益追求だけでなく、長期的な視点で次のビジネスを実現していくために、社長直轄の研究開発本部の傘下に3つの新規プロジェクトを配置。「コート剤プロジェクト」、「粉体離型剤プロジェクト」、「バッテリープロジェクト」に重点を置き、人的・技術的ネットワークを生かしながら、当社のコア技術をさらに強化し、国内外の顧客ニーズに合った製品開発におよ一層注力していきます。



中国のローカルニーズに合わせて  
機能材事業の販売増加を狙う。

自動車業界で使用される当社のダイカスト用離型剤は、高品質と高機能が評価され、国内シェアNo.1を獲得していますが、中国市場では求められる条件が異なるため、期待していたほど売上げが伸びていません。今後は市場の要求を再認識し、現地の情報収集をさらに徹底し、ローカルニーズにマッチする製品の提供に取り組み、トップシェアを狙っていきます。



## 原価低減

購買と開発の両面からの努力で  
原価を抑えて利益を出す体質へ。

当社の高付加価値製品は、特殊な原料を用いるため原価も比較的高くなっています。需要拡大が見込みにくい市場で、さらなる利益を獲得していくためには、この原価を抑えることが非常に重要。そこで昨年度からグローバル各地域の情報を共有し、最適な価格で調達が行えるように取り組んできました。また開発の努力により、性能とコストパフォーマンスを両立できる配合設計の開発に取り組んでいます。

## 新製品開発

価格競争力のある製品を実現。  
さらに次の新製品につながる種も。

当期は原油・ナフサ安の追い風を受け、新製品開発を積極的に進めることができました。当社の主要マーケットである自動車産業などに向けてダイカスト用離型剤や熱間鍛造潤滑剤、金属加工油などの新製品を次々に提案。これらが売上げを支える要因となったほか、いま研究が進められているシーズが次の新製品として来期以降に貢献していくことが期待されます。

次世代MORESCOを牽引するエンジンとしての成長・発展を目指して。

# デバイス材料事業部発足！

近年、研究開発を積極的に進めてきたデバイス材料に関連する複数の製品技術を束ね、デバイス材料事業部をスタートしました。これまでは導入段階として、必要とされるお客様へ段階的にご案内を行ってきましたが、緩やかながらも毎月手堅く売上げが期待できるようになり、いよいよ新事業部として踏み出すことに。新時代の大きな需要を取り込んでいくことができる新事業部の今後にご期待ください。

## デバイス材料事業部「三本の矢」



### 有機デバイス用封止材

超薄型軽量ディスプレイなどの用途が期待される有機ELは、空気中の水分に弱く、高精度のバリア技術が不可欠。当社は従来品に比べて2倍以上の水分バリア性能を誇る封止材を開発し、提供しています。

### ガス・水蒸気透過率測定装置

有機デバイスの実用化に向け、ガスや水蒸気の透過率を世界最高レベルの感度、かつ短時間で測定できる装置「スーパーディテクト」を開発。装置自体を販売するほか、受託試験も請け負っています。

### 有機薄膜太陽電池

フレキシブルに利用できる電源として注目度の高い新技術、有機薄膜太陽電池(OPV)に関する事業を立ち上げ。独自の製造ノウハウを持つ(株)イデアルスターと技術提携を結んで推進していきます。



取締役常務執行役員 デバイス材料事業部長  
宮川 弘和

## 5年先、10年先の大きな夢に向かって。

デバイス材料事業部は、デバイス材料開発部として数年間の実績を積み上げ、今般、当社6つめの事業部として設立されました。まだまだ規模的には小さいですが、MORESCOの将来の夢、日本発の新市場開拓、市場の成長性を期待されて事業部となりました。すでに商品化されビジネスとなっている有機EL用封止材、ガス・水蒸気透過率測定装置と、まさにこれから製造方法を確立させ、販売をしていく有機薄膜太陽電池を3つの柱としています。当社のハードディスク表面潤滑剤に続く大きなビジネスにしていきたいと思っています。メンバーは、私以下13人で、現状では、全員が研究開発、製造、営業にたずさわっているマルチプレーヤーで、日々新ビジネスの拡大に尽力しています。

## MORESCO 年間トピックス

### 10月 金属加工油事業部販売店会議 in 台湾

10月23日～25日の3日間、金属加工油事業部初の試みとなる販売店会議を台湾で開催。全国の販売店11社と台湾の代理店からご参加いただき、今後の販売活動について意見を交換しました。



### 10月 ガス・水蒸気透過率測定装置が「奨励賞」を受賞

日刊工業新聞社とモノづくり日本会議の主催事業による、2016年度超モノづくり部品大賞にて、当社のガス・水蒸気透過率測定装置が「奨励賞」を受賞。表彰式では盾と賞状を授与されたほか、「日本のモノづくり産業への貢献を期待する」とのお言葉をいただきました。





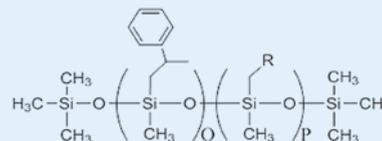
# 合成潤滑油開発部

## 低温から高温まで幅広い領域で活躍する、 新たな潤滑油を開発中！

ダイカスト用離型剤の鍵成分となる「変性シリコン」の開発を通して得た知見をベースに、低温から高温まで幅広い温度領域で使用可能な新しい高性能潤滑油の開発を進めています。この特殊シリコン素材を活用した高性能潤滑油が実現すれば、自動車用途に加えポリウムゾーンとなる家電用グリース基油市場への展開も可能となります。合成潤滑油開発部では、このほかにも合成技術を生かし、鍵となる材料を内製化することでさらにユニークな製品の市場展開を進めています。



独自開発した「変性シリコン」を配合したダイカスト用離型剤。お客様のニーズに合わせ、材料や配合を開発しています。



変性シリコンの化学構造式

進化する MORESCO

## エントランスリニューアル



## お客様をお迎えするエントランスが 生まれ変わり、ブランド発信力を強化。

2017年3月に本社ビルのエントランスが生まれ変わりました。お客様をより心地よくお迎えするとともに、MORESCOの歴史、事業、製品、そして想いをお伝えしていく空間として、さまざまな展示物を設けています。初めて当社を訪れた方でも、何を扱っている企業かがわかりやすくなったことに加え、当社で働く社員に対してもこれまでの会社の歩みなどを共有しやすくなりました。



代表的な製品の実物を展示



これまでの足跡が一覧できる展示も

# 11月/1月

日本ダイカスト会議・展示会/クルマの軽量化 技術展に出展

11月に2年に1度開催されるダイカスト業界の祭典に出展。また1月に、車の軽量化に貢献する先端技術をテーマにした技術展に出展しました。



日本ダイカスト会議・展示会



第7回クルマの軽量化 技術展

# 2月

インドにおける生産・販売拠点設立

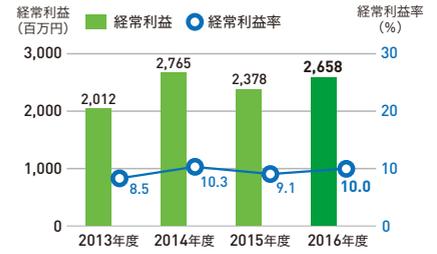
東南アジア(タイ・インドネシア)、中国、米国などに続く新たな海外拠点として、今後も成長が期待できるインドでの需要拡大を見込み、2月にインド子会社(MORESCO HM&LUB INDIA PRIVATE LIMITED)を設立。生産・販売拠点としてインド市場におけるホットメルト接着剤事業および潤滑油事業の展開をさらに進めます。

当連結会計年度の売上高は26,674百万円(前期比1.6%増)となり、経常利益は2,658百万円(前期比11.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,600百万円(前期比4.9%増)となりました。

売上高と営業利益率



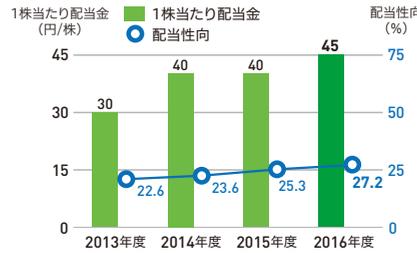
経常利益と経常利益率



海外売上高と海外売上高比率



1株当たり配当金と配当性向



自己資本と自己資本純利益率(ROE)

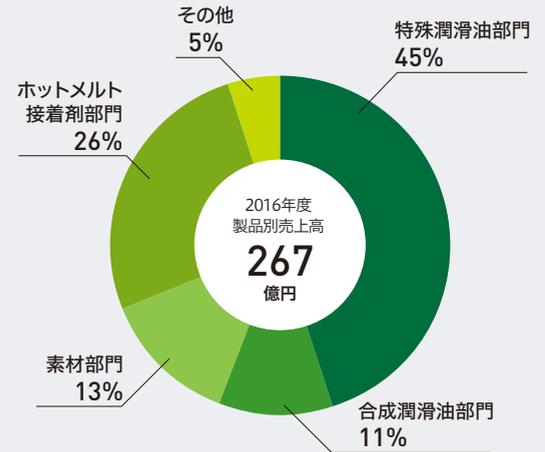


セグメント情報



製造業の回復基調を受け、特殊潤滑油部門などで売上増加。

主力となる特殊潤滑油部門では、世界的に製造業に回復の傾向が見られたうえ、新製品投入の成果も上がり、売上高を伸ばすことができました。またホットメルト接着剤部門においては、主力の大人用紙おむつなどが前期並みの実績にとどまりました。

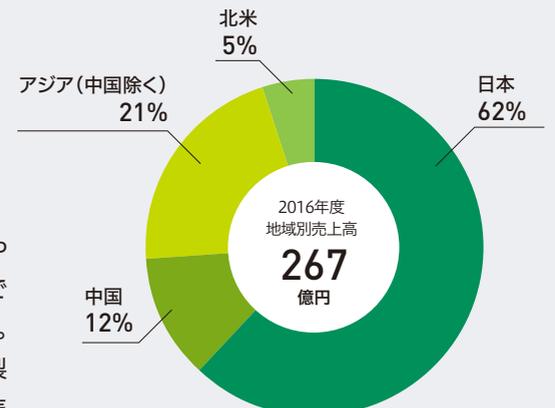


特殊潤滑油	合成潤滑油	素材	ホットメルト接着剤
ダイカスト用油剤や切削油剤は販売価格下落で売上高は前年並み。熱間鍛造潤滑剤、冷熱媒体などが売上増加。	高温用合成潤滑油の売上が増加。ハードディスク表面潤滑剤も高付加価値品へ切り替えが進み、売上は前期以上に。	流動パラフィンが売上数量を伸ばすも売上高は前年以下に。石油スルホネートは前期を上回る売上を達成。	粘着、自動車分野の売上高が好調に推移した一方、衛生材用途は顧客の在庫調整などにより前期並みの実績に。



新製品投入や原価低減が功を奏して海外は堅調。

日本では、自動車生産台数が前期並みであったにもかかわらず、新規顧客の獲得や高付加価値品への切り替えなどにより、前期比13.4%の増益を達成しました。中国では小型車向け減税策の効果で自動車生産台数が増加し、新規顧客への拡販が進展。東南アジアでは自動車生産が回復しはじめたことに加え、ホットメルト接着剤の新製品投入の成果もあって増益に。北米では堅調な自動車生産を背景に、特殊潤滑油の売上高は現地通貨ベースで前期を上回ったものの、邦貨換算額はこれを下回りました。



# 本社・第2研究棟見学会開催のご案内

株主の皆様にもRESCOへのご理解を深めていただくことを目的に、  
本社・第2研究棟見学会を開催いたします。  
この機会にもRESCOの研究開発活動をご紹介させていただきます。



## 見学会概要

見学場所	株式会社MORESCO 本社・第2研究棟 (神戸市中央区港島南町5-5-3)
実施日時	2017年9月20日(水) / 11:00~15:00
参加料	無料(ただし集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。)
その他	ご見学時の写真・ビデオ撮影はお断りさせていただいておりますのでご了承ください。 ご応募により当社が取得する株主様(ご同伴者様)の個人情報につきましては、本見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。

## 応募要領

対象者	2017年2月28日現在、当社株式をご所有の株主様 (ご同伴者は小学生以上の方1名まで可)
募集人数	30名(ご同伴者を含む) ※応募人数が多数の場合は、抽選とさせていただきますので、予めご了承願います。なお、当選のご連絡およびご参加いただく株主様への詳細なご案内は、2017年8月中旬ごろにご送付する予定です。 (当選者へは当選のご案内の発送をもって発表とさせていただきます。) (抽選にもれた方へは、ご連絡はいたしませんのでご了承ください。)
応募締切日	2017年7月14日(金)(到着分をもって締切) ※2017年5月30日発送の第59期報告書に「参加申込はがき」を同封しております。
お問い合わせ先	株式会社MORESCO 経営企画部 TEL.078-303-9058 ■受付時間 10:00~17:00(土・日・祝日を除く)

## 会社概要・株主情報 (平成29年2月28日現在)

### ■会社概要

商号	株式会社MORESCO
設立	1958年10月27日
資本金	2,090,578,200円
従業員数	294名

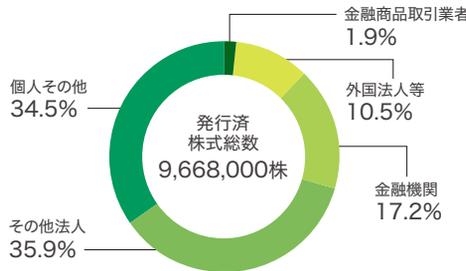
### ■本社および事業所

本社・研究センター	神戸市中央区港島南町5丁目5-3 電話078-303-9010(代表)
支店	東京支店 / 大阪支店
営業所	名古屋営業所
工場	千葉工場 / 赤穂工場

### ■株式の状況

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式総数	9,668,000株
株主数	12,028名

### ■株式所有者別分布状況



### ■大株主

株主名	持株数	株主比率(%)
松村石油(株)	1,067,000	11.0%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCROO	606,000	6.3%
コスモ石油ルブリカンツ(株)	503,000	5.2%
日本曹達(株)	365,000	3.8%
MORESCO従業員持株会	332,320	3.4%
三菱商事(株)	327,000	3.4%
双日(株)	327,000	3.4%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	320,700	3.3%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	279,400	2.9%
(株)みずほ銀行	250,000	2.6%
(株)三菱東京UFJ銀行	250,000	2.6%

持株比率は自己株式(610株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

- 事業年度 3月1日~翌年2月末日
- 期末配当金受領株主確定日 2月末日  
(中間配当を行う場合) 8月31日
- 定時株主総会 毎年5月
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
TEL:0120-094-777(通話料無料)
- 上場証券取引所 東京証券取引所

## 公告の方法

電子公告により行う  
公告記載URL  
<http://www.moresco.co.jp/>  
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

## 【ご注意】

- ◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。  
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- ◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- ◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。